

日本語を母語とする学習者の トルコ語yaniの使用について

川口 裕司 (元東京外国語大学)

ウズマン メメット (台湾国立政治大学)

第28回外国語教育学会(於青山学院大学) 2024年11月9日

流れ

はじめに

1. 先行研究について
2. 本研究について
3. yani の位置的特徴
4. yani の機能的特徴
5. yani の位置と機能

まとめ

はじめに

談話標識 (DM)

談話標識 (以下 DM)に関する初期の研究は、Halliday & Hasan (1976)、Schiffrin (1987)、Schourup & Waida (1988)に始まると言える。いずれも英語を対象とする研究であった。2000年代になると様々な言語でDMが研究されるようになった。しかしながら、Özbek (2000) が指摘するように、DMに関しては、discourse connective, discourse particle, pragmatic marker, hesitation marker, conversational greaser 等の様々な術語があり、その定義をめぐっても研究者の間で意見の一致がみられない。

トルコ語のDM研究

トルコ共和国における本格的なDM研究は、中近東工科大学(METU)の Şükriye Ruhi のチームがTÜBİTAKの補助金を受け、2008年に始めた Spoken Turkish Corpus (STC)プロジェクトの中で行われた。



<https://std.metu.edu.tr/en/>

1. 先行研究について

トルコ語の *yani* に関する重要な先行研究としては、Özbek (1995, 2000), Yılmaz (2004), Ruhi (2009) 等がある。

Özbek Nurdan (1995) *Discourse Markers in Turkish and English: a comparative study*, Unpublished Ph.D. Thesis. Nottingham University.

Özbek Nurdan (2000) “*yani, işte, şey, ya*: Interactional markers of Turkish”, *Studies on Turkish and Turkic Languages Proceedings of the Ninth International Conference on Turkish Linguistics Lincoln College, Oxford, August 12-14, 1998*, Aslı Göksel and Celia Kerslake (eds.), Harrassowitz Verlag, Wiesbaden, 393-401.

Ruhi Şükriye (2009) “The Pragmatics of *yani* as a Parenthetical Marker in Turkish: Evidence from the METU Turkish Corpus”, 『コーパスに基づく言語学教育研究報告』3, 東京外国語大学, 285-298.

Yılmaz Erkan (2004) *A pragmatic analysis of Turkish Discourse Particles: yani, işte and şey*. A thesis submitted to the graduate school of social sciences of Middle East Technical University.

Özbek (1995, 2000), Ruhi (2009)

Özbek (1995)は、トルコ語の DM の全体像を提示した研究である。それを基にしたÖzbek (2000)では、yaniに、拡張、フォーカス(ハイライト)、境界表示、修復、説明等の機能を認めている。ただし、8233語の12個の会話からなる小さなデータの分析結果である。

Ruhi (2009)は、Blakemoreの関連性理論を用いて、推論や手続き的意味を解釈し、さらにSacksらの会話分析をあわせた分析を行った。Ruhilによれば、yani「別の言い方をすれば」には、要約、結果提示、拡大、強調など機能がある。また、発話頭では主題の継続、発話中では修復、拡張、発話末では感情的な効果を表すとする。

Yilmaz (2004)

Yilmaz (2004)の研究は、おそらくyaniの最も包括的な機能を提示した研究と言える。しかし、実際の分析に当たって、この表を基にした分類を行うのは容易なことではないと考える。

会話構造領域	インタラクティブ領域	内容領域
*Turn Initiation (Turn-Entry Device) [5] *Turn Completion (Turn-Exit Device) [8] *Floor-Holder [10] *Repair Organisation [12] *TCU-Initial Self-Repair [13] *TCU-Medial (Built-in) Self-Repair [15] *Response to a Question [6]	*Emotional Effect [25] *Speaker's Emphasis [28] *Response Particle [30]	Frame Function *Topic Expansion [17] *Topic Expansion at Local Level [18] *Topic Expansion at Conversational Level [20] *Summary/Assessment/Recapitulation [23]
Total 69	Total 83	Total 78

(Yilmaz 2004, p.124)

2. 本研究について

DMの定義

作業仮説

本研究では、discourse marker (DM) の用語を用い、DMの言語特徴を以下のように定義しつつ研究を進める。

- ①DMは一般に不変化形であり、文の命題内容に参与することはなく、統語的に任意的要素である。
- ②DMの現れには位置的な特徴(談話頭・談話中・談話末)があり、その特徴はDMの機能と関連することがある。
- ③DMには2つの大きな機能がある。一つは、話し手自身がメッセージに込める談話機能(継続、拡大、修復)であり、もう一つは、話し相手に対する交話機能(感情機能)である。

本研究

本研究では、科学研究費補助金で作成した3万tokensの日本人トルコ語学習者のコーパスに現れるyaniを、ほぼ同じ規模の母語話者のコーパスと比較対照する。

対象言語	実施機関	内容	規模
トルコ語	マルマラ大学、 イスタンブール大学	話しことばコーパス	約100万tokens
トルコ語	東京外国語大学、大阪大学	学習者言語コーパス	約10万tokens*

(*トルコ語は膠着語であるためtoken数は、単語数と同じではない。)

分析したコーパス

	データ	内容	トークン数	タイプ数	yani	分析数	分析外
母語話者	7ファイル 2005年録音	学生の日常会話	31610	7513	359	331	? (20), 他用法 (4), 発話位置不明 (2), 不完全発話 (1),
学習者	18ファイル 2018,2022年録音	学生の日常会話	32556	5174	349	329	? (20)

- ・ほとんどの自由会話では、二人の学生が旅行、趣味、国などについて20分程度話している。
- ・コーパスができるだけ同じような規模になるようにした。
- ・yani の例の内、用法が不明のもの、発話位置が不明瞭、発話が不完全な例を除いた。
- ・位置と用法の分類については、ウズマンが行い、川口といっしょに確認した。
- ・転写者の中に yani を体系的に yaani と記した者がいたが、これは yani の変異とみなした。

3. yani の位置的特徴

発話における yani の位置

・学習者が発話頭で yani を多く使用する。

(1) N.M.: Evet. Ben de Türkiye'deyken meyveler çok yedim.

T.S.: Evet evet. Japonya'da çok yemiyorsun, de mi?

Yani çok pahalı. (de mi = değil mi)

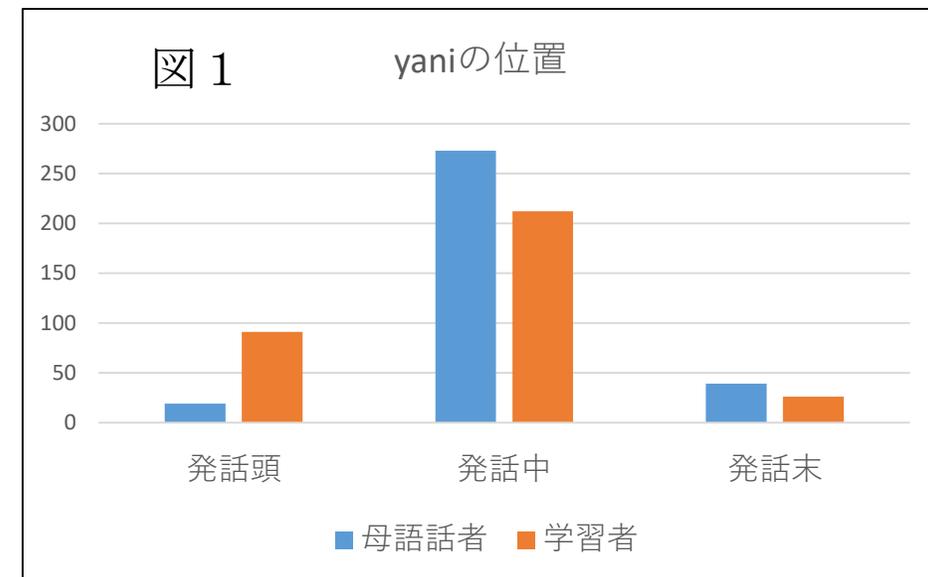
N.M.: Yemiyorum ve pahalı. (jprrtu027024fc_ts_nm).

N.M.: そうね。トルコでは果物をたくさん食べたよ。

T.S.: そうそう。日本ではあまり食べないでしょ？

とても高いから。

N.M.: 食べないね、それに高いし。



yani の位置に関して、母語話者と学習者の間に偏りがあった

$$\chi^2 (2) = 57.39 \quad p < .01$$

4. yani の機能的特徴

yani の機能

母語話者と学習者の違いを指摘できる。

(2) 母語話者は話題継続をするために yani を用いる。

AK4- ... geçen gün bi(r) arkadaşım sordu Erasmus denilen bir şey ne olduğunu sordu bana.

Ben bilmiyorum dedim, meğer Erasmus bu işte iki ülke arasında özellikle Avrupa ülkeleriyle Türkiye arasında öğrenci alışverişi filanmış, **yani** bu anlama geliyo(r)muş.

(TUFS_TR200501IS04)

AK4-...この前、友達にエラスムスって何って聞かれたんだ。知らないって答えたんだけど、

エラスムスは二国間、特にヨーロッパ諸国とトルコの間での学生交換みたいだ、そんな意味だ。

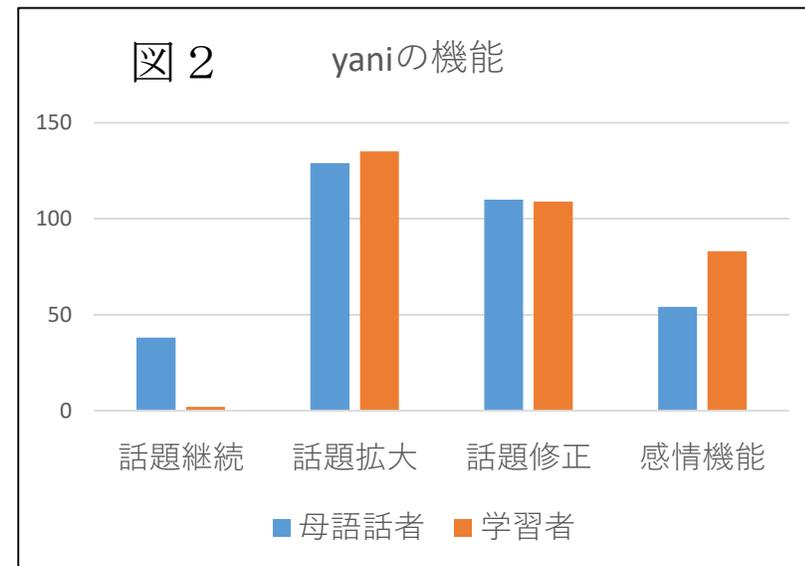
(3) 話し相手との相互作用として学習者は感情機能のyani を用いる。

AHT 44 – ... Haluk Bilginer “Tatlı Hayat” olmasa bile kendi başına gerçekten kaliteli bi(r) # oyuncu.

<Yani> Hakikaten Türkiye’de şu anda elle sayılacak **yani** bi(r) kaç kişiden birisi. (TUFS_TR200501IS06)

AHT 44 - ... ハルック・ビルギネルは、『甘い生活』を抜きにしても、実に質の高い俳優だ。

<そう>ほんと、彼は今やトルコで数えられる、そんな数名の俳優の一人だ。



yaniの機能に関しても、母語話者と学習者の間に偏りがあった

$$\chi^2(3) = 38.67 \quad p < .01$$

5. yani の位置と機能

発話頭と yani の機能

・学習者はとくに話題拡大をするために発話頭で yani を用いる。

(4) Z.Y.- ...Ben küçükken Japonya'ya ilk defa geldiğimde ben hiç Japonca bilmiyordum.

Ve çok zorluklara kar karşıtım. Yani mesela aa Japonlarıyla arkadaş olmak gibi (jptrtu018019fc).

(zorluklara = zorluklarla, kar karşıtım = karşılaştım)

Z.Y.-...小さい時、初めて日本に来た時は日本語を全く話せなかったんだ。

それで多くの困難に直面したよ。たとえば、日本人と友達になるとか。

・学習者は話題修復をするために発話頭で yani を用いる。

(5) Y.R.: Tekrar Türkiye'ye gitmek istiyor musunuz ?

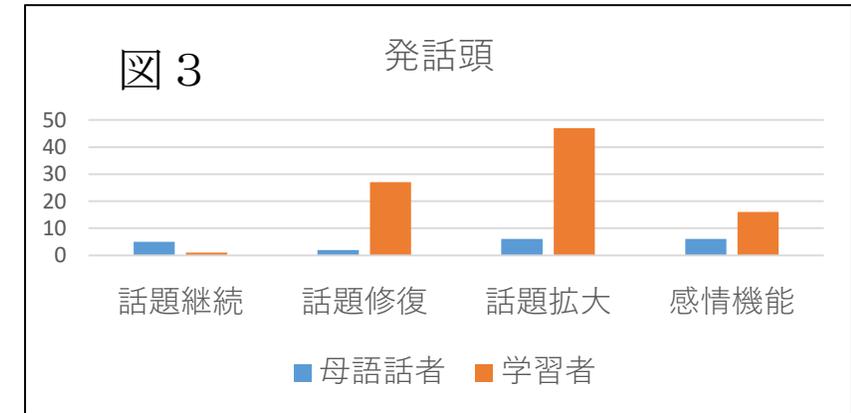
T.S.: Aa sanırım yani araştırma için belki gidebilirim. Yani evet belki onun için gidebilirim,

ama ben burada on ay falan kaldım, şimdiye kadar. (jptrtu023027fc)

Y.R: またトルコに行きたい？

T.S: そうね、つまり研究のために行ける。つまりたぶん研究で行けると思う。

ただ今日までここに10ヶ月ほど滞在してるけど。



発話頭のyaniの機能に関して、母語話者と学習者の間に偏りがあった

$$\chi^2(3) = 23.36 \quad p < .01$$

発話中と yani の機能

3つのyaniはいずれも話題継続、話題修復、話題拡大に当てはまらないため、感情機能と思われる。

(6) K.K.- ... TÖMER'de **yani yani** mm bir gün mm dört ders var.

Saat (...) (TÖMER は語学学校)

Z.Y.- Günlük, haftalık ?

K.K.- Günlük. Günlük.

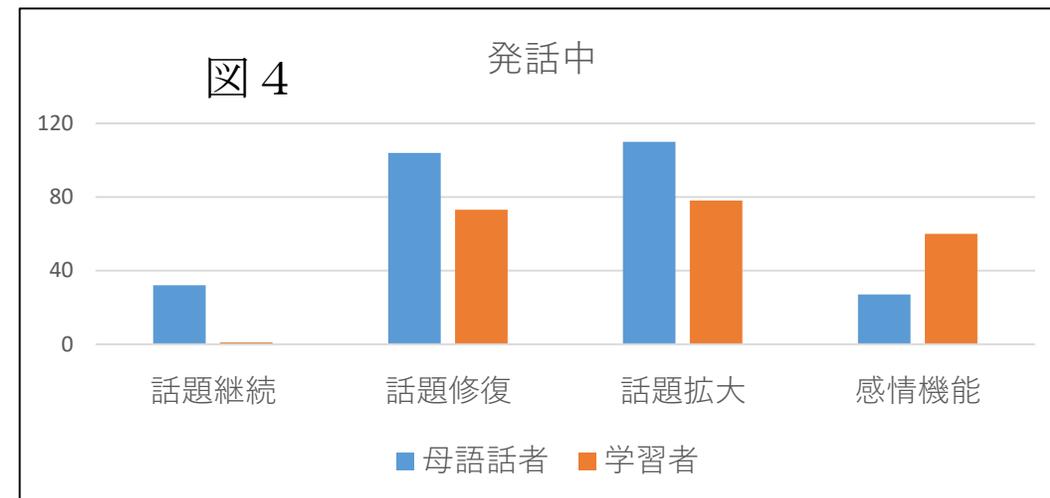
K.K.- Saat dokuzdan **yani** on üçe kadar. (jprrtu018019fc)

K.K.- ... TÖMERでは、つまり、えーと1日に、えーと4つの授業があるんだ。時間は(...)

Z.Y.- 日に、週に？

K.K.- 日に。日にだよ。

K.K.- 9時から、13時までね。



話題継続は母語話者が多い。

発話中のyaniの機能に関して、母語話者と学習者の間に偏りがあった

$\chi^2(3) = 45.56$ $p < .01$

発話末と yani の機能

学習者は発話末における話題修復

(7) T.S.: Aa anladım. Sabah kaçtan akşam kaç
kadar çalışıyorsunuz?

Y.R.: Sabah Fleks şey.

T.S.: Haa değişiyor **yani**.

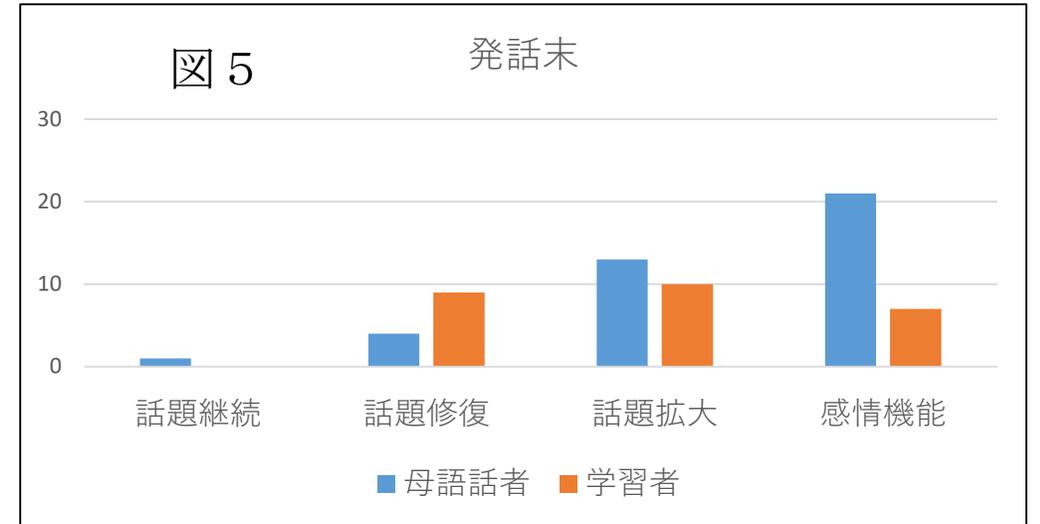
Y.R.: Evet. Güne göre değişiyor. <Anladım.> (jptrtu013027fc)

T.S.: ああ分かった。朝何時から夕方何時まで
働いてるの？

Y.R.: 朝はフレックスさ。

T.S.: ああ、変わるわけね。

Y.R.: そう。日によって変わるんだ。<わかった。>



感情機能は母語話者が多く利用。

発話末のyaniの機能に関して、母語話者と学習者の間に偏りがあった

$$\chi^2(3) = 8.04 \quad p < .05$$

まとめ

まとめ

- yani の位置的特徴として、学習者は発話頭で yani を頻繁に用いる。
- yani の機能的特徴として
 - (1) 母語話者は、話題継続や相互作用における感情機能を表す yani が多い。
 - (2) 学習者は話題修復や話題拡大のために、発話頭で yani を用いる傾向がある。
 - (3) 学習者は話題修復、話題拡大とは思えない発話中での yani の使用が見られる。
本報告ではこれを感情機能とした。
 - (4) 学習者は発話末においても、話題修復のために yani を用いることがある。

今後の課題

- より再現性の高い機能分類方法を考えることが必要である。
- yani の使用に個人的な特徴があるかどうかを考察する。

参考文献

- Degand Liesbeth (2014) "So very fast then' Discourse Markers at Left and Right Periphery in Spoken French, in Kate Beeching and Ulrich Detges (eds.) *Discourse Functions at the Left and Right Periphery: Crosslinguistic Investigations of Language Use and Language Change*, Brill: Leiden, 151-178.
- Dostie Gaétane (2004) *Pragmaticalisation et marqueurs discursifs Analyse sémantique et traitement lexicographique*, De Boeck.Duculot, 2004.
- Halliday M.A.K. & Ruqaiya Hasan (1976) *Cohesion in English*, Routledge, London.
- Hansen Maj-Britt Mosegaard (1998) *The Function of Discourse Particles A Study with Special Reference to Spoken Standard French*, John Benjamins, Philadelphia.
- İşsever Selçuk (1996) “Kullanımsal işlevleri açısından Türkçedeki bağlaçlar”, X. Ulusal Dilbilim Kurultayı, İzmir: Ege University Press, 83-93.
- Özbek Nurdan (1995) *Discourse Markers in Turkish and English: a comparative study*, Unpublished Ph.D. Thesis. Nottingham University.
- Özbek Nurdan (2000) “*yani, işte, şey, ya*: Interactional markers of Turkish”, *Studies on Turkish and Turkic Languages Proceedings of the Ninth International Conference on Turkish Linguistics Lincoln College, Oxford, August 12-14, 1998*, Aslı Göksel and Celia Kerslake (eds.), Harrassowitz Verlag, Wiesbaden, 393-401.
- Ruhi Sükriye (2009) “The Pragmatics of *yani* as a Parenthetical Marker in Turkish: Evidence from the METU Turkish Corpus”, 『コーパスに基づく言語学教育研究報告』3, 東京外国語大学, 285-298.
- Schiffrin Deborah (1987) *Discourse markers*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Schourup Laurence & Toshiko Waida (1988) *English Connectives*, くろしお出版, 東京.
- Schourup Laurence (2009) “Tutorial Overview: Discourse Markers”, *Lingua* 107, 227-265.
- Yılmaz Erkan (2004) *A pragmatic analysis of Turkish Discourse Particles: yani, işte and şey*. A thesis submitted to the graduate school of social sciences of Middle East Technical University.

ご清聴ありがとうございました。

謝辞

この研究は科研B 20H01279「言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」の補助を受けました。